助産師を目指す学生のみなさんへ

助産学専攻科４期生　岸　本　寿　子

私は、現在県内の総合病院の産婦人科に、助産師として勤務しています。少子高齢化が続く現代、社会における助産師の役割も多様になってきていると実感しています。少子化が進み、どの病院でも分娩件数が激減してきているのが厳しい現状だと思います。今後もしばらく、この状況は変わらないのではないかと思っています。

そこで、これから助産学を学ぼうと思っている方、また、助産師として就職しようと思っている方は、是非自分の興味のある分野を伸ばし、“助産師としての自分の売り”となるものを作ってください。産科の看護が業務のメインと考えられがちな助産師ではありますが、先述した通り、産婦人科を取り巻く社会のニーズは多様化してきています。病院勤務の助産師といえども、求められる役割は多岐に亘ります。ただ漠然と産婦人科で働きたいというのではなく、助産師としてやりたい事、携わりたい事をしっかり持ち、それに向かって短い学生生活を過ごしていただきたいと思います。分娩介助技術や分娩時の看護を学びたいと思われる方は、助産院での分娩を見学に行かれるのもよいでしょう。母親教室の運営に力を注ぎたいと思われる方は、戸田律子先生の著書をお勧めします。性教育をやりたいと思う方は、研修会や講演に参加されても勉強になると思います。ＤＶや育児に悩む女性を手助けしたいと思われる方は、それらに関する法律や社会資源の勉強も必要かもしれません。しかし、このように偉そうなことを言っている私ですが、学生のときには全く勉強しませんでした。実際に勤め始めてから、学生のときにもっと勉強しておけばよかったと思うことばかりでした。現場は、教科書に載っていることだけで対処できることばかりではありません。上述したことは、実は、私自身がこの数年で感じたことなのです。そして、患者様に関わりながら、私に助産師としてもっと力があったらと悔しい思いもしました。私のように、勤め始めてから必要に駆られ勉強することも大切だと思います。そして、その中から、興味の湧いた事や身につけたいと思った技術を探究し続けることも専門職として大切なことだと思います。自分自身興味を持って勉強することは、きっと皆さんの力になると思います。そしてその力は、皆さんの“売り”となり、必ずや助産師としての魅力となることでしょう。

助産師にとっては、今後も厳しい時代が続くと思われますが、活躍の場を病院に止めず、ご自身の“売り”を最大限活用できる場でご活躍され、魅力ある助産師となられることを、同じ助産師として願っています。